



令和五年度

木材利用優良施設等の表彰

令和5年10月30日(月) 14時～

「木材利用推進全国会議」内で開催

「木材利用推進全国会議」木材利用優良施設等の表彰  
オンライン・オフライン参加者募集中

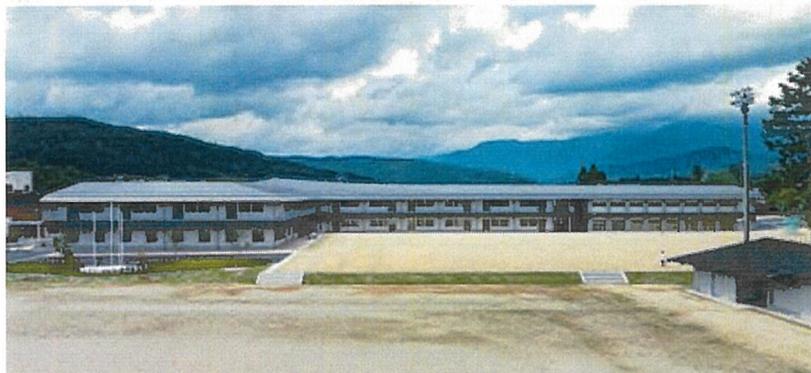
# 文部科学大臣賞

なか つ がわ

ふく おか

## 中津川市立福岡小学校 (岐阜県中津川市)

なか つ がわ



### 【施設概要】

中津川市は全国屈指の「ヒノキ」の産地であり、「東濃ヒノキをふんだんに活用」を本プロジェクトの大きなテーマに掲げ、木材の調達から製材まで地域経済の循環を意識しながら、地域材の積極的な活用に取り組んでいる。

多目的広場には、4校統合の学校のシンボルとして寄付材の丸太をシンボリックに配置し、地域の誇りや親しみやすさを表現している。また、防耐火構造の工夫により、性能を担保しつつ、この地域の風景に相応しいデザイン性を両立していることも高く評価される。

施主	中津川市
設計	株式会社石本建築事務所
施工	中島・岡山特定建設工事共同企業体
主要構造	木造軸組工法、鉄骨造、鉄筋コンクリート造
延床面積	6,034.87㎡
主な使用樹種	ヒノキ、スギ

# 賞状

優良施設部門

文部科学大臣賞

中津川市立福岡小学校

施主 中津川市 殿

設計者 株式会社石本建築事務所 殿

施工者 中島・岡山特定建設工事共同企業体 殿

あなたの作品は木材利用推進中央  
協議会主催の令和五年度木材利用  
優良施設等コンクールにおいて特に  
優秀と認められたのでこれを賞します

令和五年十月三十日

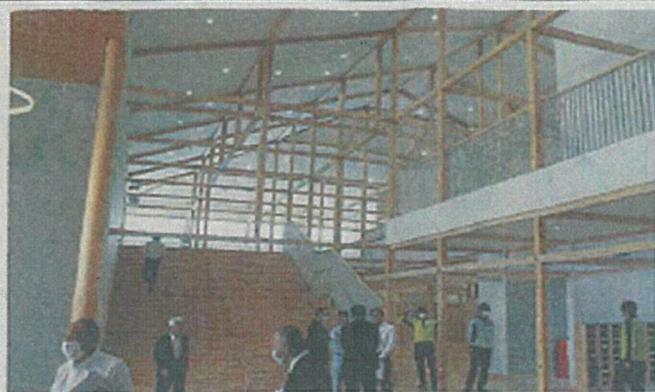
文部科学大臣 盛山正仁



# 福岡小校舎が文科大臣賞

## 中津川市 木材利用優良施設等コン

中津川市は10月30日、今年7月に完成した福岡小学校が「木材利用優良施設等



地産の木材を多く使った福岡小の校舎（7月の完成式）＝中津川市福岡で

コンクール（優良施設部門）」（木材利用推進中央協議会主催）で文部科学大臣賞を受賞したと発表した。

市が東濃ヒノキのふんだんな活用をテーマに掲げ、木材調達から製材まで地域経済の循環を意識して取り組んだことなどが評価された。福岡小は計4小学校（福岡、下野、高山、田瀬小）が統合してできており、統合のシンボルとして寄付材の丸太を象徴的に配置したことや防耐火構造を工夫して性能とデザインを

両立したことも評価された。

福岡小の建設にあたって、市は982立方メートルの木材を調達し、うち約96%が県産材（946立方メートル）、約66%が市産材（644立方メートル）だった。ヒノキ552立方メートル、スギ96立方メートルを使った。

学校は校舎（木造一部鉄骨造り2階建て延べ約4400平方メートル）、屋内運動場（鉄筋コンクリート造り）、共同調理場（鉄骨造り）などで構成。地元の中島・岡山特定建設工事共同企業体が施工した。

コンクールは国産材の需要拡大による地域経済の活性化などが狙い。中津川市が受賞した優良施設部門に

は内閣総理大臣賞など特賞は10点余りあり、文科大臣賞もその一つ。

（三田村泰和）

文部科学大臣賞に輝いた福岡小学校の外観 | 中津川市福岡



木々をふんだんに取り入れた多目的広場。磨き丸太が立ち並び、木の香りが漂う空間になっている—同

木材利用優良施設等コンクール

福岡小が文科大臣賞

東濃ヒノキの積極活用評価

今年7月に完成した中津川市立福岡小学校の新校舎が、本年度の木材利用優良施設等コンクールの優良施設部門で、特賞に当たる文部科学大臣賞を受賞した。14の特賞があるが、県内から選ばれたのは唯一。  
(宮樫一平)

同校の新校舎は市が全国屈指のヒノキの産地であることから、東濃ヒノキをふんだんに活用することをテーマに整備。木造一部鉄骨造りの2階建てで、延べ床面積は6034平方メートル。特に児童玄関に面している多目的広場は、寄付材の丸太がそびえ立ち、木の香りが漂う空間になっている。

コンクールは木材利用推進中央協議会(菅野康則会長)が主催。同協議会によると、優良施設部門には全国から約80点の応募があった。木材をふんだんに使っている点に加え、地域の材を調達し、製材も含めて地域経済の循環を意識しながら、積極活用した点も高く評価された。